

I C T 技術を活用した学級経営

ー学級内 S N S を活用した双方向情報交換システムづくりー

群馬県立大泉高等学校 バイオテクノロジー科 2011 入学クラス

児童・生徒の健全な成長を支援するためには、学校だけではなく、家庭や地域との連携が必要といわれる。しかし、連携の基礎となる学校からの情報提供は必ずしも十分とはいえなかった。保護者は子どもから聞くか、「連絡帳」や「学校だより」・「学級通信」等の限られた媒体で受け取るしかなかった。近年、Web サイトによる情報発信が主流になってきたが、例えばホームルームで生徒に直接連絡事項等を公開することはなかった。

今回 I C T 技術を使い、学級内 S N S を構築し、日々の学級活動や生徒の活動をなるべくリアルタイムに「見える化」することに取り組んだ。インターネットの利用を前提とした情報発信には、課題もあるが、現時点で有効な双方向情報交換ツールと考えられる。

[キーワード] C M S (Contents Management System), S N S (Social Network System),
学級経営, 学級通信, 保護者, 連携

1 はじめに

(1) 背景

従来から「教育は、学校・社会・家庭の中で行われる」と言われるが、社会に目を向けると、少子高齢化や情報化、国際化・グローバル化などの「社会の変化」が急速に進んでいる。また、家庭に目に向けると、核家族化や社会の変化に伴う保護者の雇用形態の多様化など、従来の家族のあり方を問いかけるような「家庭の変化」も進んでいる。そのような背景のなかで、「社会の教育力」や「家庭の教育力」の低下が叫ばれ、相対的に「学校教育」に対する期待は高まり、今日に至っている。

児童・生徒も自らが生活する社会や家庭に大きな影響を実際に受けていることもあり、学校で指導されても、その内容が家庭で反復されないなど、その場限りの指導になってしまう場合も多い。したがって、「開かれた学校」とよくいうが、学校だけで児童・生徒の教育を行うことは不可能だからこそ、学校の教育方針等を的確に情報発信するとともに、「我々の学校」という意識を教職員だけでなく、地域社会や家庭とも分担し共有を図ることが大切になる。それこそがまさに連携であり、群馬県教育委員会が平成 23 年度の 8 つの基本施策の 6 番目にあげている「学校・家庭・地域の連携を推進する」⁽¹⁾ ということである。

(2) 学級担任としての保護者との連携

学級担任として保護者との連携づくりは、入学式直後の学級懇談会から始まる。

保護者と学校が同じ方向を向いて指導しないと、3 年間という限られた時間の中で、教育成果を出せない現実がある。そのため、以下の事項を学級懇談会で説明する。

＜家庭でご注意いただきたいこと＞

- 規則正しい生活を送りましょう。
- きちんとした食生活を送りましょう。
- 登下校の交通事故防止のため、余裕をもって家を出ましょう。
- 学校との連絡を密にしましょう。変化に気づいたら遠慮なく連絡下さい。
- アルバイトは夏休みまで禁止です。まずは学校に慣れましょう。

＜生徒指導上注意すること＞

○校則を守りましょう（例えば、身だしなみをきちんとするなど）。

○持ち物の自己管理をしっかりとしましょう。

○三不急運動を守りましょう（群馬県全体の取り組みである）。

○携帯電話の校内使用はやめましょう（バッグから出さない）。

また、担任として、以下の4点をお願いした。

①学級広報誌を週2回発行するので必ず読んで欲しい。

②欠席等の連絡は保護者が必ず連絡をして欲しい。

③緊急用メールリングリストを作成するので、メールアドレスを報告して欲しい。

④個別に指導した場合はその都度詳細や経過を学校から連絡する。

疑問点について質疑応答を行い、学級担任としてできる限りの情報提供を心がけるので、家庭でもバックアップして欲しいとお願いして懇談会を閉じる。

2 情報交換ツールの変遷

(1) ICT導入以前：学級広報誌

日程的な問題により、当初からICT技術を使ったサイト構築ができなかったため、第1学期は紙媒体の学級広報誌を月曜日と金曜日の週2回発行した（図1・図2）。学校でどのようなことが行われているかをなるべく紹介するなど、興味関心をもってもらえる内容を意識して編集した。

図1は第1号の表面であり、生徒や保護者向けのメッセージや月間行事予定表、担任紹介などを掲載した。図2は第3号の裏面であり、発表された校時表や、週内の出来事（満開の桜の前で集合写真を撮影した）、翌週の予定表と日記用の記入用スペース、保護者への連絡事項として、携帯電話に関する指導内容について掲載した。

その他に掲載した内容としては、生徒が授業やLHRでどのような取り組みをしているかの紹介や行事を終えての感想などを掲載した。学級通信には「生徒の作文を掲載しない方が良い」とする考えもあるが、保護者にとって子どもたちがどのように考えているかを



図1 学級広報誌第1号（表面）



図2 学級広報誌第3号（裏面）

知るには良い機会となるし、クラスメートの考え方に触れることによって、子どもとの会話のきっかけになるかもしれないので、生徒の文章をなるべく掲載するように心がけた。それは、一人ひとりいろいろな意見を持ち、自分と異なる意見が出て当然であること。また、いろいろな意見をだせる環境が望ましい姿であると理解して欲しいと考えるからである。

学級広報誌はA4縦置き両面2ページ構成であり、誌面のボリュームがあるので、発行にかける負担はかなりあった。しかし、保護者には大変好評なうえ、続けて出して欲しいという要望もあったので、1学期間32号を発行した。

(2) ICT導入に向けて：Webポータルコンセプト

図3は、今回作成したWebポータルのコンセプト図である。通常のWebサイト（ホームページ）・Webポータルともにインターネット上のサービスである。ホームページによる情報提供（情報発信）は、図中の下部で示しているように、不特定多数に向けた情報発信は得意であるが、対象を限定したページの閲覧などを設定するには技術的な工夫が必要となる。

今回構築したWebポータルは、ログインした者だけがアクセス可能なコミュニティスペースとホームページのような外部公開用のスペースを分けることがで

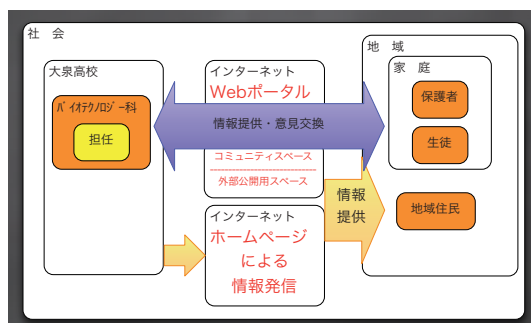


図3 Webポータルのコンセプト図

きる。そのため、誰にでも閲覧させたい情報は外部公開用スペースから情報提供し、管理者が認証するIDとパスワードをもっている保護者や生徒、教師等の学校関係者のみがコミュニティスペースを閲覧することができる。したがって、例えば朝や帰りのSHRにおける連絡事項や日直誌の内容などもコミュニティスペースならば掲載可能となる。

4月下旬に試験運用を開始し、学級広報誌第5号（図4）でポータルサイトの運用に関する告知を行った。当初は外部公開用スペースを使い、ホームページとして活用を開始した。

保護者・生徒のためのポータルサイトが完成しました

第1号の編集後記のなかで構想を述べながら、なかなか作業の進まなかったポータルサイトがやっと完成しました。前号で、サイトのURLを紹介しましたので、今号ではもう少し詳しくお知らせします。

サイト名は、「2011年度入学生のためのウェブポータル」です。「ポータル」とは、一般に「門、ドアなどの入り口」を指しています。つまり、右上のログインから中に入り、一般に公開していない情報を取り扱えるようになります。しかし、当分の間はログインできないようになっていますので、ホームページとしての利用となります。

メニュー

サイト内の他のページへ移動するメニュー

行事日程

行事予定カレンダーが掲載されています

学級通信

すでに発行した学級通信をダウンロードするためのリンク

※パスワード(1号で紹介)を入力しないと、ファイルをダウンロードできません。

<以下の項目は次頁>

保護者向け情報

質問箱

リンクページ

ログイン

ポータル内の自分の部屋に入るための認証を行うリンク（当分の間は利用できません）

提出物等

提出物のリストです。期限や進捗率（提出状況）がわかります。

※提出するよう指示した内容のみ掲載します。

連絡事項

SHR等での連絡事項や行事の内容などを紹介します。

ウェブポータルのURL
<http://oizumi2011.ikyoshi.net/htdocs/>

図4 Webポータルの開設を紹介する学級広報誌（第5号）の誌面

(3) Web ポータル移行のために：紙媒体から電子媒体への移行を目指して

学級懇談会で緊急用のメーリングリストについて説明し、メールアドレスの提出を求めた。義務教育段階でメールによる連絡等を導入している学校もあったので、ほとんどの保護者がその場でメールアドレスの提供があった。

Web ポータルへの移行を目指し、紙媒体での学級通信を中心に据えながら、4月下旬までにメーリングリストの設定を行った。ゴールデン・ウィーク前に緊急用メールを送信する旨、学級広報誌で告知しながら送信テストを行った。連休前に緊急連絡用メーリングリストを整備できたことは、危機管理のうえからも好ましいことである。

緊急用のメールは、文字通り緊急の連絡事項を電子メールで送信するシステムであり、事実9月下旬の台風接近に伴い、午前中で放課させる決定をした時に保護者宛の一報などに役立っている。また、Web ポータル完成後は、学級広報誌（電子版）のリンクを一齐送信するためのシステムとして不可欠な存在になっている。

(4) Web ポータルの運用に向けて

今回 Web ポータルは、Net Commons という CMS (Contents Management System) と LMS (Learning Management System) とグループウェアを統合したコミュニティウェアを使って運用した。Net Commons は、国立情報学研究所（以下 NII と略す）という機関が開発・公開しているオープンソース CMS である。NII は大学共同利用機関法人であり、国内最大の学術情報ネットワークやさまざまな学術データベースを運営・提供している情報学に関する国の研究所である⁽²⁾。なお、「Net Commons の操作と活用」については、群馬県総合教育センターにおいて「ICT 活用力向上研修講座」として研修講座を開講している⁽³⁾。また、本年4月に文部科学省から発表された教育の情報化ビジョンの第5章校務の情報化の在り方において、＜校務の情報化に関する課題＞の既導入されている校務支援システムとして紹介されている⁽⁴⁾。

図5は、NIIのNet Commons パンフレット⁽⁵⁾の一部である。動作環境は、LAMPと呼ばれる、OSをLinux、WebサーバをApache、データベースをMySQL、PHPの使用を推奨している。一般的な商用サーバで使用でき、このWebポータルも民間の商用サーバ上で運用している。ちなみに、大泉高校のホームページも同様のシステムで運用しているので、3月11日に発生した東日本大震災においてもシステムダウンすることはない、24



図5 Net Commons のパンフレット

時間運用を続けることができた。データセンターやクラウドの利用は、災害に強く、セキュリティにも十分配慮されたサーバー施設を低コストで手に入れることが可能となる⁽⁶⁾。

Net Commons は、図5にあるように、Public Space、Group Space、Private Space の3層のバーチャルスペースで構成されており、ログインすることによって、誰でも閲覧可能な外部公開用スペースから、コミュニティスペースやプライベートスペースに入ることが可能になる。コミュニティスペースは、サイトのIDをもつユーザなら全員閲覧することができ、プライベートスペースはIDをもっている本人しか閲覧できないスペースであり、他のユーザは閲覧できない。もちろん、ログインIDによりシステムがユーザの権限を確認し、アクセスコントロールが可能となる。本Webポータルにおいても、「生徒」、「保護者」、「教師」の権限に違いがあり、例えば「職員室」のメニューは、「生徒」や「保護者」には

2011年度入学生のためのウェブポータル

No. 33
2011年
8月
10日
(水)

全校登校日

今日は、全校登校日です。
本校は全校登校日を夏季休業中に1日設定していますが、補習の多い学校などは、登校日はありません。
今日はLHRが中心になります。夏休み中の状況報告などもしてもらう予定です。今日欠席の生徒は、後日登校してもらいます。
25日(木)は当番がありますので、こちらも休まず登校して下さい。
始業式は、9月1日(木)になります。第4校時から通常授業になりますので、教科書等を忘れないようにして下さい。

<3つのスペース>

灰色の背景
外部公開用スペース
パスワード不要
→ 誰でも見られる
(個人情報を記入できない)

青色の背景
コミュニティスペース
パスワード必要
→ ログイン出来る人だけ
閲覧できるスペース
(個人情報を記入できる)

緑色の背景
プライベートスペース
パスワード必要
→ 本人しか見られない
※ 使える機能は、
To Do と 日誌 のみ

学級広報誌からポータルサイトへ
情報提供の方法が変わります

従来は紙媒体の学級広報誌をととして保護者向け情報を提供してきましたが、これからはポータルサイトをととして情報を提供します。
紙でないと、分かり難い等のご意見もあろうかと思いますが、今後はなるべくリアルタイムでの情報発信を心がけたいと思っております。
URLは右の通りです。 <http://oizumi2011.ikyoshi.net/htdocs/>

外部公開用スペース

コミュニティスペース

プライベートスペース

右上の「ログイン」をクリックすると、新しいスペースを利用できます。

※「ログイン」をクリックすると、「ID」と「パスワード」を求めるダイアログが表示されます。

ログインすると、青枠内のスペースに入れます。
※ 9月1日以降は、ログインしないと、連絡事項等も閲覧出来なくなります。
「ID」と「パスワード」は、9月1日に生徒をととして配付します。

Voice of T1 ● 65

図6 Webポータルの運用について紹介する学級広報誌(第33号)の誌面

- 5 -

表示されないし、入室することもできない。

9月からのコミュニティスペースを使用した本格的な運用に向けて、保護者への周知徹底を図るため、夏季休業中の全校登校日に配布した学級広報誌にはポータルサイトの概要と移行に関する情報提供を行った（前ページの図6）。

3 Webポータルの概要

(1) 外部公開用スペース

Webポータルのトップページが、図7である。タイトルは、「2011年度入学生のための」となっており、他のクラスの運用も可能な仕様になっているが、現時点ではバイオテクノロジー科だけが運用している。トップページは、現在担任等が回収物の状況を知らせる「提出物等」と「お知らせ」が表示される。以下、メニューにしたがい、内容を紹介したい。

「行事日程」……学校行事や授業変更等がカレンダーに表示される（図8）。行事や授業変更は、確認や変更された時点で入力すれば、入力忘れもないし、リアルタイムで変更されて最新状況が表示される。

「クラス目標・時間割等」……クラス目標・時間割・校時表等を閲覧できる。

「学級広報誌」……紙媒体の広報誌をダウンロードするためのリンク（ダウンロードするためには、パスワードが必要）、や学級広報誌（電子版）へのリンク（ログインしなければ閲覧できない）がある。

「保護者向け情報」……学校から発出する保護者宛文書（PDF形式ファイル）をダウンロードするためのリンク（図9）がある。

「質問箱」……担任や学校への質問事項はログインすれば閲覧可能なコミュニティスペースへ移動した。また、学校の情報（所在地、住所、電話番号等、メールアドレス）が掲載されている。

「リンクページ」……学校のホームページや学習支援サイトへのリンクや担任へのメールアドレスへのリンクが用意してある。



図7 外部公開用スペースのトップページ



図8 行事予定カレンダー



図9 保護者向け情報を知らせるページ

(2) コミュニティスペース

コミュニティスペースのトップページは図 10 のとおりである。ホームルームの連絡事項が最新の更新から順に続いている。

以下、メニューにしたがい内容を
を紹介したい。

〔揭示板〕……保護者とのディスカッションを行う場と考えている。例えば、「携帯電話の指導について」など、保護者が自らの意見を書き込めるようになっている。

[LHR] …… 水曜日の第1校時
 に行っている LHR の時間の内容に
 ついて紹介している。3 年次に、「自
 分はこんな職業に就きたいな」と
 具体的なイメージをもって進路決定
 した欲しいと考えているので、職業
 えるような題材を設定している。例
 テレビ放送の「プロフェッショナル
 などを視聴し、感想等を書かせてい
 た文章は、[生徒の感想文等] のペー
 ている。

〔日直誌〕……日直者が放課後、教室のPCから日直としての感想をアップロードしている。生徒がこのサイトを活用できるようにするため、最初の1ローテーションは帰りのSHR後に説明しながら入力させたが、以後はSHR後、自主的に入力させている。さぼって未記入の生徒もいるが、生徒は「自宅で入力します」と言い、自宅からもアップロードする生徒もいる。

〔学級広報誌（電子版）〕……第2学期の始業式を最後に紙媒体での学級広報誌を休刊し、以後学級広報誌（電子版）として毎週金曜日に発行している（図11）。ページへのアクセスリンクを含めたメールをメーリングリストで一斉送付している。現時点でコメントを書き込む保護者はいないが、紙媒体とは異なりコメントを書き込めるということで双方向のコミュニケーションが可能となった。

「担任から送付したメール一覧」…… メーリングリストで送付したメールの内容を確認することができる。

〔生徒の感想文等〕……〔LHR〕の項目で紹介したが、生徒が記入した感想を記名で掲載している。入力は、担任が担当する「農業情報処理」の授業において、学習支援サイト⁽⁷⁾からオンラインテキストで入力させたものを担任が加工し掲載している。



図 10 コミュニティ スペースのトップページ

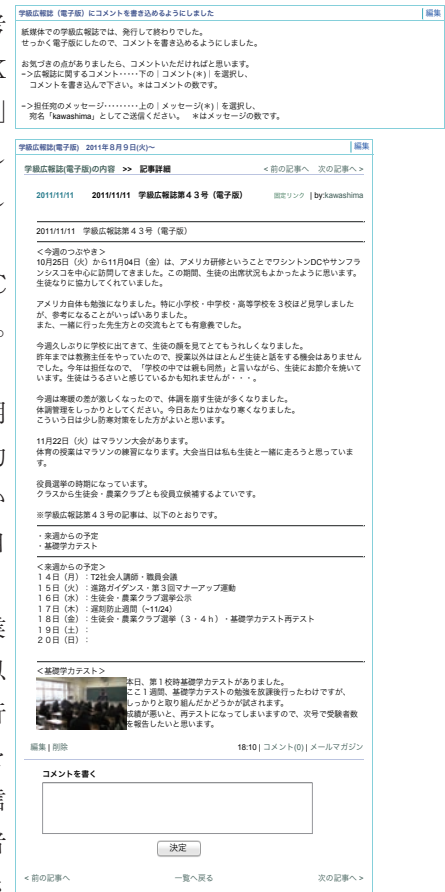


図 11 学級広報誌(電子版)第43号

「アンケート」……Web上でアンケートを設定し実施することが可能であるが、現段階では使用していない機能である。今後、例えば「学校評価」や「学級満足度の調査」などのアンケート実施に使いたいと考えているが、ネットワークの普及率の現状を考えると、100% Web上で実施することは時期尚早かもしれない。

「職員室」のページは、図 14 のようになっており、ファイル共有機能の「キャビネット」と、生徒の指導記録を書き込むデータベース機能をもっている。また、生徒情報のデータベースについては、養護教諭と連携し、クラスの生徒が保健室を利用した内容が記録されるシステムができあがっている。養護教諭の視点や会話した内容を含めた指導の記録の書き込みもあるので、担任としても大変有意義な情報となっている。

この取り組みから Web ポータルを例えば学校全体のシステムへと発展させることは可能であるが、運用には学校全体で情報の共有の意識づくりや運用に向けた詳細なロードマップ作成などクリアしなければならない課題がある。

※**過去の連絡事項**▶

「連絡事項」に記入された、すでに終了した「お知らせ」は、こちらから閲覧できます。
 ※新しい内容が上部にきます。

※**11月4日（金）に閲覧回数3000回を突破しました。**

[10月17日～12月16日]

※**11月1日（火）から危険物取扱者試験の補習が始まります。**
 通常、曜日のSHR終了後から16：30を以て補習を行います。
 ※通常、補習開始時間の遅れにより、終了が遅れる場合があります。
試験日 2月17日（土）です

[10月17日～11月4日]

10月25日（火）～11月4日（金）：担任出張となります。
 この間も、連絡事項等の掲載できますので、ご了承ください。

[10月04日～10月14日]

〔平成23年度第2学期中間考査日程〕

	12日(水)	13日(木)	14日(金)
第1校時	農業科学基礎	自習	バイオ基礎
第2校時	地理A	農業情報処理	理科考査B
第3校時	英語I	国語総合	数学I

[9月29日～10月04日]

※**トップページ**にありました**連絡事項は、「ログイン」しないと見られなくなり**ました。
ログイン用のアカウントとパスワードは、9月1日に生徒を通じて配付しました。
 ※不明な場合は、**担任までご連絡**ください。
 ・授業交換は、**行事日程**のカレンダーに入力したので、ご了承ください。
 ・授業交換は、**行事日程**をクリックすると内容が表示されます。

[8月30日～9月5日帰郷]

夏期休業中の課題の提出
 ※課題は提出期限をもって提出するよう指導しています。
 ※ご家庭でも「提出した？」と声かけをのたいたでと助かります。
 (例) **数字の宿題は5日（月）が提出期限**のためです

レの
な
搭
た
以
い
る

,
導
た,
権

ID「seito」でログインした時のコミュニティスペースのメニュー

- ▼ホームルーム
 - ▶ 連絡事項
 - ▶ 掲示板
 - ▶ LHR
 - ▶ 日直誌
 - ▶ 学級広報誌(電子版)
 - ▶ 担任から送付したメール一覧
 - ▶ 生徒の感想文等
 - ▶ アルバム
 - ▶ 過去の連絡事項
 - ▶ アンケート
- ▶ seitoのお部屋

キャンビネット

フォルダ作成	ファイル追加	左端→ダウンロード	検索する	ユーザー名 kawashima
フォルダ クラスボックス 2011年度	名前 2011年度			サイズ 更新者 kawashima

データベースの記入について

生徒の指導記録をまとめた、データベースです。

日々指導してお気づきの点がありましたら、遠慮なくご記入下さい。
 なお、保護者・生徒帳限に入書すると、「職員室」のメニューは表示されません。
 ※正しいところばかりでなく、良いところの記入も歓迎します。
 ※誤れ入りですが、**Aアカウントとパスワードの取り扱いには十分ご注意ください。**

<記入例>	
生徒氏名	生徒の氏名を入力して下さい
日時	2011/09/03 ○時**分頃
カテゴリ	教科担任 等の選択肢から選択（不明はその他から）
概要	授業中にガムをかんでいたので、注意しました。
記入者	自分の氏名を入力して下さい
詳細	(概要の内容を詳細に希求して下さい) 例えば……授業中机間巡視をしていたら、ガムをかんでいたのが注意されました。指導に素直に従わなかったので、授業後呼んで再度指導しました。

※キーワードに「名字」を記入したくとも、検索することができません。
 ※なるべく早くコメントを入力させて頂きます。例えば以下のとおりです。

コメント

kawashima 2011/09/03 15:19:12 **編集 | 削除**
 (川島)お世話になりました。授業中の取り組みについて、HR等でも指導をしていきたいと思ひます。

– 8 –

(3) プライベートスペース

自分のIDでログインすると、図15のようなページが表示される。設定では、自分で作成したTODOリストと最新情報が表示される。図では最新情報の表示設定が5日分に設定してあるので、＜連絡事項＞、＜日直誌＞などの各項目の5日以内の情報が表示されている。表示設定は、例えば「今日だけ」とか「○日分」と設定することが可能である。



図15 プライベートスペースのトップページ

4 学級内SNSという考え方

携帯電話を含む携帯情報端末の発展により、FaceBookやMixi、GREEなどのSNS (Social Network System) サービス真っ盛りである。SNSとはインターネット上に社会的なネットワークを構築するサービスの総称である。従来のホームページ型の一方通行の情報発信と異なり、双方向のコミュニケーションを促進するのが最大の特徴である。今、SNSが急速に利用が進んでいるのも、例えば、同じ仕事や趣味、同窓というつながりをベースに、人々が人間関係を広げ、自らの成長を実感できるツールとして認知しているからに他ならない⁽⁸⁾。

今回のWebポータルでの取り組みは、学校から保護者や生徒に向けて一方的な情報伝達を行うために構築したものではなく、双方向の情報交換を目指して構築した。ホームページとしての運用が7ヶ月、ポータルサイトとしての運用が2ヶ月半ほどしか経過していない。閲覧数は3000を超えたものの、保護者からの書き込みが少ない点を考慮すると、双方向の情報交換ツールとしては十分に機能しているとはいえないかもしれない。しかし、仮に一方通行の情報発信になったとしても、学校での指導の内容や子どもの姿を家庭で見ることができれば、それらの情報を触媒にして家庭内で親子の人間関係を以前より活性化することは疑いない。その活性化の手助けをWebポータルが行っているのは確かである。

視点を変えて、一方通行の情報発信でもそれを家庭が好意的に見ているとすれば、それは今までの学校からの情報発信が少なすぎたということを示している。「開かれた学校づくりの推進」をいずれの学校も標榜し、さまざまな媒体で情報発信している。しかし、現実として十分な情報提供がされていると感じている保護者は少ないのかもしれない。

本Webポータルサイトは、「学級」という限定された「場」に縁のある人々の学級内SNSであり、群馬県立大泉高校バイオテクノロジー科に2011年度入学した生徒40名とその保護者及び学校関係者のみがアクセス可能なWeb上のスペースである。限定されたユーザーしか閲覧することができないからこそ、日々の学級活動や生徒の活動をなるべく詳細に描写することが可能となり、その情報が保護者にとって大変有効な情報となる。

学級内SNSにログインしてコミュニティスペースに入れば、生徒・保護者・学校関係者がそれぞれの情報を自由に書き込むことができる。マナーの問題や不測の事態を想定して「危険回避のために何もやらない」という発想ではなく、互いの信頼関係に基づきながら、人間関係づくりを広げていくことがとても大切である。そして、SNSの急速な発展が示しているように、ソーシャルメディアを使った関係づくりはしっかりと根付き、そしてどんどん広がり、深まり発展していくのである。

クラスの生徒たちには入学時に教科「情報」の代替科目である「農業情報処理」の授業でメールアドレス(〇〇@oizumi-hs.gsn.ed.jp)を配付している。アドレスから分かるように、群馬スクールネットワークのサブドメインを使って発行しているが、授業ではメーリングリストと連動して授業の内容の連絡や学習支援サイトへのリンクなどを送っている。

メールでのやりとりは、生徒だけでなく保護者との重要なやりとりになりつつある。保護者とのメールのやりとりについては、学校現場では懐疑的な意見もあるが、メール本来のもつ時間を気にせず送受信できる手軽さは指導上大変有効と考える。保護者が気づいた時に送れることが重要であり、「深夜なので明日」と思いつつ忘れてしまうことは多いので、この送信する時の敷居の低さはメールならではの点と考える。メールのやりとりは、記録として情報が残るので、相談のやりとりの経緯が明確になり、例えば、指導方針を学年主任等に相談する時に文書を印刷できるなど利点もある。

5 まとめ

従来からDTPによる学級通信の発行をベースに保護者との連携を心がけた学級経営を行ってきたが、本年度5年ぶりに担任をもつことになり、その役割をソーシャルメディアで代替できないか検討した。

生徒の健全な成長を支援するためには、学校だけではなく、家庭や地域との連携、特に保護者の力が大きいと考えている。しかし、連携の基礎となる学校からの情報提供は必ずしも十分といえる状況になかった。保護者が学校の様子を知るすべは、子どもから話を聞くか、例えば小学校では「連絡帳」があるものの、中学校や高校では「学校だより」や「学級通信」が月に1度発行される程度の限られたものであった。近年、Webサイトによる情報発信が主流になってきたが、学校行事の様子などはしっかりと掲載されているが、例えばあるクラスのホームルームの状況などを公開することはなかった。つまり、不特定多数に情報提供するには最適なホームページかもしれないが、個人情報が特定できるような詳細な内容は掲載できないという欠点があった。

今回ICT技術を使い、学級内SNSを構築し、日々の学級活動や生徒の活動をなるべくリアルタイムに「見える化」する取り組みに挑戦した。運用まもないために、保護者からのコメントはまだ少ないが、今後の関係づくりのなかで双方向の情報交換が図られると感じている。生徒・保護者の個人情報を守りつつ、詳細な活動報告を行うためのツールとして、この学級内SNSが当面の有効なツールであると確信した。

今回運用しているシステムを使えば、例えば、学校全体の情報発信ツールとしての「学校SNS」、校務の省力化を目指した「校務運営グループウェア」を構築することは技術的には容易である。残された課題は、校内情報をどのように活用するか合意形成である。

参考資料

- (1) 群馬県教育委員会高校教育課・特別支援教室 平成23年度県立学校教育指導の重点, 2011, p1
- (2) 新井 紀子編著 『Net Commons で本格ウェブサイト』 近代科学社, 2009, p12
- (3) 群馬県総合教育センター ぐんまの教育 No. 8, 2010, p60
- (4) 文部科学省 教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～, 2011年4月28日, p24
- (5) 国立情報学研究所 Net Commons のパンフレット, 2009
- (6) 新井 紀子ら著 『Net Commons 実例でわかるサイト構築』 近代科学社, 2011, p88
- (7) 川島 一秀 『ICT技術を活用した学習支援サイト』, 2011
※学習支援サイトのURLは, <http://manabi.nogyokyoiku.net/moodle/>
- (8) 教師力を高めるSNS徹底活用術 『総合教育技術』2011年11月号, 小学館, p56